

2025年4月1日～2026年3月31日に心エコー図検査を受けた方へ

研究 左室駆出率計測時に同時に算出される簡易 Global Longitudinal Strain(GLS)の有用性に関する検討の実施について

1. 本研究の目的および方法

心臓の働きを評価する方法として、「GLS(Global Longitudinal Strain)」という指標があります。GLSは、心筋の縦方向の動きを調べることができ、心臓のポンプ機能(LVEF:左室駆出率)がまだ低下していない早い段階でも、心筋の異常を発見することができます。このことから、心不全や弁膜症、心筋症、虚血性心疾患などの経過を予測するうえで、GLSは非常に有用であると報告されています。しかし、従来のGLSの測定には専用のソフトウェアや機器が必要であり、日常診療ではまだ十分に普及していないのが現状です。そこで、最近では、通常の超音波検査で取得する心臓の動画像をもとに、心臓の内膜面をトレースすることでGLSを算出する「簡易GLS」という方法が注目されています。この方法では、従来の方法と比較して、操作が簡便で検査時間も短縮できる可能性があり、日常臨床の活用が期待されています。

本研究では、この「簡易GLS」と従来のGLSとの関連を調べ、その臨床的意義を明らかにすることを目的としています。研究全体の実施期間は、研究機関の長の実施許可日～2027年3月31日までです。予定症例数は、GLS解析に適した動画像を有する100例です。この100例は、2025年4月1日～2026年3月31日までに、当院超音波センターで検査を施行した患者データを抽出して再解析します。本研究は、徳島大学病院生命科学・医学系研究倫理審査委員会の承認後、研究機関の長の許可を得て実施しています。

2. 研究に用いる試料・情報の種類および保管方法について

情報:超音波検査データ、カルテ番号、疾患名、年齢、性別、身長、体重。これら抽出データは当該個人と関わりのない記号に置き換えて加工します。

電子カルテより収集した情報は電子媒体として保存し、徳島大学病院では個人情報管理者は山田博胤 超音波センター長とし、研究期間終了後3年間、超音波センターの施錠可能なパスワードでロックされ、インターネットを含めたネットワーク環境から離断されたパソコンに保管します。保管期間終了後は完全に廃棄し、本研究以外には使用しません。

3. 研究結果の公表について

本研究の結果は学会や雑誌等で公表することがありますが、公表に際しては特定の研究対象者を識別できないように措置を行った上で取り扱います。

4. 研究資金および利益相反管理について

本研究における特別な研究資金はありません。本研究は、本院の研究費のみを使用して実施されます。本研究の利害関係については、臨床研究利益相反審査委員会の審査を受け、承認を得ております。

5. 本研究への参加を拒否する場合

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

6. 研究責任者および連絡(問合せ)先

【研究機関】 徳島大学病院

【研究責任者】 超音波センター 西尾 進

【連絡先】

徳島大学病院 超音波センター

電話:088-633-9311

研究担当技師:西尾 進

本研究への参加に同意しない場合は、連絡先までご連絡下さい。